

令和元年豪雨対策検討プロジェクトの取り組みについて

昨年の豪雨災害を受け設置した、「令和元年豪雨対策検討プロジェクト」において検討している浸水対策の検討状況は次のとおり。

なお、早期に実施できるものから随時対応しており、中長期で検討するものについては、今年度に整備計画を策定する予定。

取組内容（令和2年度出水期への短期的な対応）

1) ソフト対策

①久留米市避難情報配信サービスの運用開始（事前登録制）

エリアメールが受信できない等の情報弱者のみの世帯に対し、電話やFAXで避難情報を配信。

②久留米市浸水注意情報配信サービスの運用開始（事前登録制）

避難情報発令前に道路冠水が始まる「池町川・筒川流域」での浸水被害を軽減するため、河川の水位上昇に伴い、早期に「浸水注意情報」をメールで配信する。

③久留米市公式LINEによる災害情報の配信開始

久留米市公式LINEから市HPの防災情報へ直結したリンクボタンを設置。災害発生時には被災状況をリアルタイムで投稿している市の公式Facebookへリンク先を切り替えるとともに、情報更新の際にはプッシュ型で通知。

④Web版ハザードマップの運用開始

スマートフォンやパソコン等のタブレットで任意の地点における複数のハザード情報を手軽に確認できるWeb版ハザードマップの運用を開始する。

⑤筒川沿線設置監視カメラ・水位計情報のHP公表

筒川の水位の変化を視覚及び数値にて確認できるよう、新たに監視カメラと水位計を設置しHPで公表する。

⑥中小企業者の防災・減災に対する取組を支援

事前対策として、災害リスクに対応した「事業継続力強化計画」を策定し、国の認定を受けた市内中小企業者に対して奨励金を支給する。

⑦土のうの確保

地域住民が浸水被害を自主的に防衛するため、自由に持ち出しできる土のうを作製し、各校区内に配備する。

また、各総合支所や企業局でも一定数を配備し、浸水対策に活用する。

2) ハード対策

⑧市管理河川及び筒川流域の浚渫

市管理河川等（24河川）について、河川の正常な機能維持、洪水時の災害軽減を図るため、土砂掘削を行う。

今後の予定

1) ソフト対策

⑨防災重点ため池ハザードマップの公表

市内防災重点ため池のうち79箇所については、決壊した場合の浸水ハザードマップを作成。市ホームページに掲載のほか、校区・自治会・水利権者等へ配布。

⑩雨水流出抑制施設（雨水貯留タンク）設置助成

個人が設置する雨水流出抑制施設（雨水貯留タンク）に対し助成を行う。

2) ハード対策

⑪筒川浸水被害対策

浸水シミュレーションを用いた雨水流出解析を実施し、「浸水原因の究明」、「効果的な浸水対策（案）の抽出」を行った。

今後、浸水対策計画を策定するなど、「抜本的な浸水対策」について本年度末を今年度末を目途に取りまとめる予定。